

ヨーロッパトップレベルの名監督たちの気になる値段は？

〜高額のサラリーをもらうようになった監督という職業〜

つい最近までは監督の賃金については、選手のように表立って話題になるようなことはなかった。だが、今ではスター選手と同水準、いや、それより高給取りの監督も決して珍しい存在ではなくなっている。サッカーの監督の賃金の仕組みとはどうなっているのか？ その値段は？ 気になる部分にスポットを当てた。

文●DASIA 写真●原 悦生 翻訳●熊井ひろ美
Text by DASIA Photo by Ftsuno Hara Translation by Hiromi Kumai

目標達成のプレッシャーはますます大きくなった

世の監督たちは何十年もの間、賃金に関して言えば、サッカー界における尺度の最下端に位置してきた。彼らの年俸の金額は、その職の実際の重みや役割とは無関係であることも多かった。問題が生じた場合に最初にクビになるのは監督だというのが、だが今や状況は変わり、監督にとって好ま

しい方向に動いていて、中にはチーム一の高給取りとなった監督すら現れている。

監督の賃金という問題は、長年にわたって表面には現れていなかった。だが、選手の年俸が急騰し始めるにつれて、監督とチーム首脳陣にとってこの問題に目をつぶっていることは困難になった。給料の安い監督が高給取りの選手に対して威厳を保つのは、ますます難しくなっていたのだ。賃

金は人の価値を表すものであり、この見方からすると、かつての監督たちはやり方が下手だった。今日では状況は変化し、とくに一流監督の間ではそれが顕著だ。

デイヴィッド・ベッカム、ロナウド、ジネディン・ジダン、レアル・マドリーで640万ユーロもの年俸をもらっているかもしれないが、ジョゼ・モウリーニョ監督がチェルシーとの契約を2010年6月まで延長した際に引き出した900

万ユーロという巨額の年俸と比べれば、それも色あせてしまう。

監督が選手よりも高い年俸をもらうのは、まったく正常なことだ。なんといつても、監督の地位は昔よりもはるかにもろく、目標達成のプレッシャーはますます大きくなってしまったのだから当然だ。

たとえばイングランドでは、監督はマネージャーと呼ばれ、ピッチの上で結果を出さなければならぬだけでなく、財政面においても結果を出す必要がある。それを考えれば、年俸のもっとも高い監督が見つかる場所はイングランドだというのは、決して偶然ではない。ジョゼ・モウリーニョ、アレックス・ファーガソン、スウェン・ゴラン・エリックソン、アーセン・ウェンゲルらは、世界のサッカー監督の年俸ランキングにおけるベスト4であり、その全員がイングランドを活動の場としている(別表を参照のこと)。賃金だけで、すべての事情はわ

からない。選手と同様に、監督は勝利給を受け取っており、こういったボーナスの金額はその勝利の重要性に応じてさまざまだ。たとえば、2004年のプレミアリーグ優勝により、アーセナルのアーセン・ヴェンゲル監督は100万ユーロも

のボーナスを獲得した。翌シーズンに同じタイトルを勝ち取ったモウリーニョ監督は、150万ユーロのボーナスを手に入れている。

自分の地位がいかに不安定なものかを十分に承知して、契約の中に解雇料を織り込んでいる監督

督すらいる。

バイエルン・ミュンヘンが2004年にオットマール・ヒッツフェルトを解任したとき、契約は2005年6月まで残っており、このスイス人監督は契約を履行しない年間の報酬である280万ユーロまで手に入れたのだ。アルベルト・ザツケローニは、インテル監督として課せられた義務、つまりチャンピオンズリーグ出場を果たしながら2003年6月にロベルト・マンチーニに監督の座を取って代わられたとき、賠償金として250万ユーロを受け取っている。

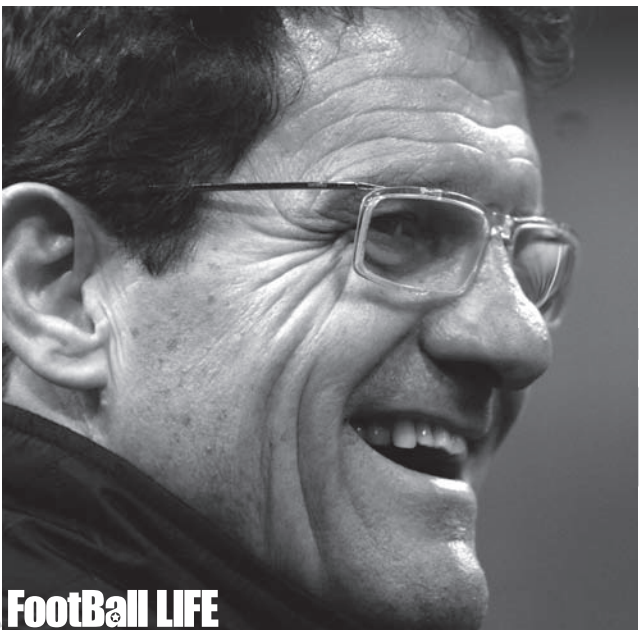
新たな収入源は、メディアへの参入と講演

したがって、現在では賃金やボーナスに関して言えば、頭の良いた監督なら選手との比較で不満に思うようなことはほとんどない。しかし、賃金とボーナスは全体像のうち的一部分でしかないの

だ。監督よりも多く、一流選手はその肖像権に基づく商業契約によって莫大な資産を得ることができる。この分野で一番稼いでいるのはベッカムで、広告収入と版權および興行権により、年俸以外に年間1850万ユーロもの追加収入がある。

もちろん、ベッカムに対抗できる選手などいない。たとえば、チェルシーのフランク・ランパードは年俸760万ユーロだが、肖像権の商業的利用による収入は年間100万ユーロしか見込めない。このような収入源を実際に作り出すことのできる監督は、ほぼ皆無だ。

しかし、それをやってのけた監督も存在する。ユルゲン・クリンスマンはマンシャフト(ドイツ代表)の監督就任以来、マスターカード、アディダス、ミユラー牛乳などのブランドの スポンサー料により60万ユーロの追加収入を手に入れているが、ベッカムの域にはまだほ



現在ユヴェントスで指揮を執るファビオ・カペッロはクラブ史上最高額で契約を結んでいる。

ど遠い。この項目における最高記録をもつ監督も、やはりジョゼ・モウリーニョだ。

「私にとって人生とは、常に一歩先を行くこと」と、彼はアメリカン・エクスプレスの広告で宣言している。この広告の出演料は100万ユーロだった。モウリーニョは広告主からの人気が非常に高いため、関係者の話によると、年間300万〜600万ユーロもの広告契約を断らざるを得ないのだという。昨年の夏にはアディダスと4年間のスポンサー契約を結んでいて、推定金額は450万ユーロ。メディアにおけるモウリーニョの人氣があまりにも高いことから、彼の伝記映画をジョージ・クルーニー主演で制作することを考えている映画プロデューサーまでいるのだ。

モウリーニョにとっては今、すべてが思い通りに進んでいる。ルックスが良く、強烈な個性の持ち主で、50代がひしめく監督たちの間では

若いほうだ(46歳)。50歳の壁を越えてからこのような収入源の追加を見込める監督はほとんどいない。

フランス人監督ギー・ルーは例外的存在で、素朴な外見と切れ者のイメージをうまく利用している。メディアへの参入と講演も、監督にとって新たな収入源だ。アレックス・ファーガソンとアーセン・ヴェンゲルは、世界有数の会議エージェンシーであるBSBインターナショナルが主催するセミナーや夕食会で講演するたびに、2万5000ユーロを受け取っている。さらにヴェンゲルは、フランスのテレビ局TFIでコメントするたびに報酬を得ている。フランス代表の試合の解説で約2万ユーロだ。

だが、この金額はこういった監督にとってははした金に過ぎない。アレックス・ファーガソンには著書からの収入もあり、ほかの監督も本を書くことで稼いでいる。しかし、テレビ収入には一流監督の興味をそそるほどのおもしろみは

どんな手を使ってでも金持ちになりたい!!

全体的に見て、監督たちの金運はうまい具合に上昇してきた。しかし、中には本当に欲深い監督もいる。大きな(しかも簡単な)収入源の一つは選手の代理人手数料だ。経験則に基づいて、クラブ

もリーグも監督が選手の移籍から収入を得ることを禁じている。だが、その方法で金を集めようとする監督もいるのだ。1997年から1999年までマルセイユの指揮を執っていたフランス人監督ロラン・クルビスは、どうやら移籍選手を利用して儲けていたらしい。マルセイユの元理事長ギ-

ダルボノーは、クルビスが「選手の代理人から密かに手数料を受け取っていた」として非難した。この件について、たいしたことはわかっていない。クラブは悪い評判が立つのを嫌がるもので、とくに株式上場しているクラブはなおさらだ。一方、監督も自分のキャリアを危険にさらそうとはしない。

世界の高額年俸監督ランキング TOP10

順位	監督名(所属)	年俸	備考
1	ジョゼ・モウリーニョ(チェルシー)	約12億6千万円	ポルトガル人モウリーニョのチェルシー監督就任により、アレックス・ファーガソンは年俸世界一監督の座を奪われた。モウリーニョの初年度の年俸は520万ユーロだったが、プレミアリーグ優勝により900万ユーロまで上昇。契約は2010年まで。
2	アレックス・ファーガソン(マンチェスター・U)	約8億1千万円	年俸580万ユーロを稼ぐマンチェスター・U監督が2位の座を占める。さらに、BSBインターナショナルからの講演料(2万5000ユーロ)とともに著作権収入がある。しかし後者に関しては、しばしば自伝を出版していないため減少傾向だ。
3	ズヴェン・ゴラン・エリクソン(イングランド代表)	約7億3千万円	エリクソンは代表監督としては世界一の稼ぎ手で、年俸は520万ユーロ。その上、ワールドカップ本大会出場によるボーナス—FAはこの件に関して沈黙を保っている—とビデオゲーム「サッカーワールドマスター」のロイヤリティ収入がある。
4	アーセン・ヴェンゲル(アーセナル)	約5億6千万円	フランス人監督アーセン・ヴェンゲルは、2004年にアーセナルとの契約延長を交渉する際に慎重を期した。年俸は320万ユーロからおそらく400万ユーロに上昇しており、講演料およびテレビ出演料によりさらに40万ユーロの収入がある。
5	ファビオ・カペッロ(ユヴェントス)	約4億2千万円	ユヴェントスとしては史上最高額(300万ユーロ)の監督。カペッロの年俸はローマ監督時代(380万ユーロ)よりも下がったが、支払われることは確実で、これはローマでは期待できなかったことだ。ローマからの未払い賃金の合計は、およそ300万ユーロにおよぶようだ。
6	フランク・ライカールト(バルセロナ)	約4億2千万円	かつてオランダ代表を率いたライカールトは、リーガ・エスパニョラでの成功を評価され、現在はバルセロナと年俸300万ユーロの3年契約を結んでいる。
7	ラファエル・ベニテス(リヴァプール)	約3億6千万円	元ヴァレンシア監督のベニテスは、プレミアリーグの監督の中では年俸第4位となる。彼の年俸は260万ユーロで、昨年はチャンピオンズリーグ優勝により秘密のボーナスを手にした。
8	ユルゲン・クリンスマン(ドイツ代表)	約3億5千万円	経験の浅い監督にとっては、年俸250万ユーロを引き出しただけでもたいしたもの。もしもドイツが自国開催のワールドカップで優勝したら、クリンスマンは100万ユーロのボーナスを得ることになっている。再びスポットライトを浴びたことで、広告契約による60万ユーロの追加収入も手にした。
9	ロベルト・マンチーニ(インテル)	約3億5千万円	今回、インテルはマンチーニ監督の年俸の情報に関して非常に慎重な態度をとってきた。しかし、前任者アルベルト・ザッケローニが受け取っていた250万ユーロよりも低い年俸とはとうい考えがたい。
10	フェリックス・マガト(バイエルン)	約2億8千万円	バイエルン監督マガトの年俸は200万ユーロで第10位。しかしこの気の毒な状況に同情するのは早すぎる。近いうちにマガトの分け前が増えるかもしれないからだ。「数週間のうちに、クラブ史上初の規模で何かを用意することになるかもしれない」とルンメニグ会長が宣言しているからだ。

注:1ユーロ=140円で換算

The european great coaches in gold.



Football LIFE

アーセナルのヴェンゲルも、本業の傍らでサイドビジネスを営む。

煙幕がいくつも張られているので、監督が稼いだ収入の全範囲を完全に査定するのは困難だ。たとえば、多くの監督は非課税地域に在外会社を設立しており、たとえばアーセン・ヴェンゲルの場合も、ポナナスは二つの窓口会社を通じて支払われている。表向きは、違法性など何もない。税金や社

システムにおける役割がいまなお不透明だ。ヴェンゲルはギウーのアカデミーに投資しており、彼のバルギー進出も支援したが、その見返りは、どうやら何も得ていないらしい……。現在、そのルートで獲得したアフリカ人選手がアーセナルに二人所属しているのは、一流の

会負担を避けるための手段にすぎないという可能性が高いからだ。こういった会社は謎に包まれていて、銀行との取り引きのシステムも秘密のままのため、もっと多くのことが起こっているかもしれない。

ヴェンゲルの場合、長年の友人ジャン・マルク・ギウーが設立したアフリカ人選手育成

監督は引く手あまただということ、クラブ側はあらゆる手段を使ってでも引き留めようとするのだ。一流選手に対してとる行動と同じだ。

だから今日では、一流監督は多くの場合、スター選手と同じくらい稼いでいる。プレッシャーが同じなら、給料も同じというわけだ。